

科目区分：人間科学科目

授業科目名	人間の科学（-性と生-）				学期	曜日	校時
英語名	Human Sciences（-Sexuality and Life-）						
担当 教員名	宮原 春美 他	単位数	2単位	必修 選択	選択	前期 後期	金曜日 火曜日 3校時 5校時
授業のねらい・内容・方法							
<p>本講座は「人間の性とは何か」についてアプローチする。近年、人々の性行動や規範は解放されてきたが、人々の生涯を豊かにする「人間関係としての性」の学習は保障されていない。この学習の不在に加えて、インターネットを頂点とするあふれるメディア情報に翻弄されているのが現代社会の姿ではなかろうか。人間の性は本能ではなく学習により獲得されることが一つの特徴である。「性」をテーマとして、自己と他者への思考を深め、性情報の取捨選択能力を培う。それらを通し、今後における個々人の豊かなセクシュアリティ確立とモラル形成を図る。</p> <p>なお、教室の収容定員を超える場合は受講制限を行う。</p>							
テキスト、教材等							
<p>講義はプリント資料、ビデオ、あるいはスライドにより行う。特にテキストは指定しない。</p> <p>参考図書：「人間の性とは何か」ミルトン・ダイヤモンド（小学館）、「セクソロジー・ノート」村瀬幸浩（十月舎） 「ジェンダーの西洋史」井上洋子他（法律文化社）「性現象論」加藤秀一（勁草書房） 「Human Sexuality in a World of Diversity」Rathus, Spencer A.（Allyn & Bacon） 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」北村邦彦（メディカ出版）「中絶論争とアメリカ社会」荻野美穂（岩波書店）</p>							
対象学生	成績評価の方法				教員研究室		
全学部	課題レポート提出（適宜）など学習状況（40％）と授業への参加状況（60％）から総合的に評価する。						
授業計画							
<p>授業計画：</p> <p>1～2回 人間の性（セクシュアリティ）とは何かについて考える。 性科学で明らかにされてきた学際的な事実を知る。進化の過程からみたヒトの性の特徴、キンゼイレポートに始まる人々の性に対する様々な調査結果、マスターズ・ジョンソンが実験的に明らかにした「人間の性反応」などを学習する。まとめとしてWHOの定義した「セクシュアリティ」という概念について学ぶ。</p> <p>3回 性別（セックス）の成り立ちの意味を科学的、社会的に学ぶ。またフェミニズムの視点から、ジェンダーについて学ぶ。</p> <p>4～6回 人間の体の仕組みを「性の視点」から学ぶ。 相互の理解と尊重のために、基本的な性器の構造と生殖（妊娠・分娩）の仕組みを学習する。特に情報の乏しい男性の身体についても学び、セックスや性器に関する誤解を是正し、正確な性情報の選択能力を培う。</p> <p>7回 性感染症の具体的な知識を得ることによって、若年世代での性感染症蔓延やの実態を認識する。性的健康を可能にする行動やパートナーとの関係性について考える。AIDSを始めとする性感染症の最新情報を得る。</p> <p>8～10回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて学ぶ。 リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて概観し、そのいくつかの健康課題について具体的な学習を通して豊かな男女の関係をいかに築くかを考える。 人工妊娠中絶に関する法律とその歴史的背景について 避妊法（低用量ピル、緊急避妊法、コンドームなど）の進歩と実際について 健康教育としての性教育の理論とその実際について</p> <p>10～12回 人間関係としての性を考える。 個人のあり方はその時代の男女の社会関係そのものであり、社会的視点から愛、家族、結婚等について考える。</p> <p>13～15回 性の多様性を学ぶ。 文化人類学的な視点から性の多様性を知る。また基本的人権の視点から障害者、高齢者、同性愛者、トランスジェンダーなどについて学ぶ。またレイプ、ドメスティック・バイオレンス、性的虐待、性の商品化などの現況を把握し、性行為における同意の質を考える。</p>							
<p>オフィスアワー： mailでの質問を受け付ける。代表者のmail：spring@net.nagasaki-u.ac.jp</p>							